



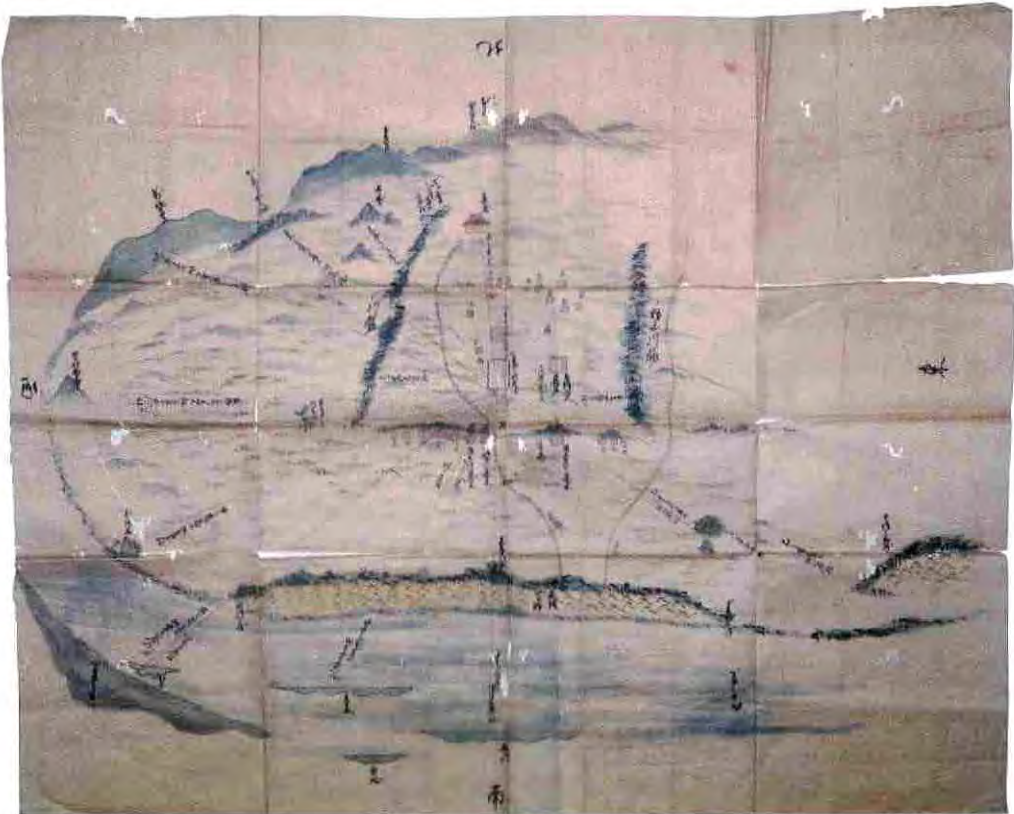
University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.34 No.3 (No.131) July, 2001

# 「大学所蔵資料と歴史学」

豊見山 和行

## 1 歴史学とコンピューター

カビくさい古文書や古記録を一枚一枚、鉛筆で筆写し、さらに大量の史料をカードに分類・整理する。それらの史料を元に論文を仕上げる。ほんの10年ほど前までの、私のような古い時代（前近代史）を研究する文献史学研究者の基本的な研究スタイルは、そのようなものであった。「樹とハサミの歴史学」と揶揄された、ローテクによる研究スタイルが近年、様変わりしつつある。



「宮良殿内文庫資料集」文庫資料番号273（仮）墓地風水図(ぼちふうすいず)  
 年代不明。19世紀頃か。56.7×70.0cm。1枚。  
 本絵図は、石垣島における風水思想や歴史地理情報を得る上でも貴重な史料である。

目次	
「大学所蔵史料と歴史学」	文献紹介：幕末の異国船来琉記と当時の琉球の状況-①-
.....豊見山和行	1 豊平朝美
本館1階に貴重図書室を設置	3 お知らせ
Web of Scienceを体験しよう	4

附属図書館のホームページ (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

そのキーワードは史料のデジタル化、流行の用語で言えばIT化である。およそハイテクとは縁がないと思われていた歴史研究の領域にもデジタル化の波は、急速に押し寄せている。

デジタル化は、インターネットの爆発的な拡大とともに史料を所蔵する機関（公文書館、大学図書館等）のあり方をも変えつつある。「史料の保存と利用・公開」という相反する役割を同時に担わされている史料所蔵機関において、貴重度の高い史料ほど旧来その閲覧のガードは堅かった。東京などでの学会や研究会への出張の際、ついでに史料調査を行うこともよくある。史料目録から予想外の史料を見つけだし、その閲覧を急ぎよ申請すると、所蔵機関によっては「館長決裁が必要」とすげない返事をもらうこともあった。そのたびに、貴重史料を飛び込みで閲覧申請することの「非常識さ」を自覚しつつも、原本史料へのアクセスをもっと容易に実現できる方法はないものかと歎息した。

そのような状況を史料のデジタル化が変えつつある。原本史料の情報発信について、その取り組みが弱い機関もまだまだ多い。しかし、デジタル化の波はもはや押し止めることはできない情勢になってきた。

文献史料をあつかうものにとって、史料目録は原本史料へアクセスする際の第一歩である。そのため各種の史料目録を備えておく必要があるが、印刷物主体の旧来の目録類は一度、印刷・刊行されるとめったに増刷されることはない。また、史料目録は少数しか発行しないため、その入手も簡単ではない。そのため所蔵機関に赴き、そこでようやく目録をめぐって探索するが多かった。このスタイルも変化しつつある。旧来の印刷物を媒体とした目録からデジタル化によって、パソコンで検索することが可能になってきたからだ。「死んだ情報」に等しい印刷物の史料目録をデジタル化し、インターネット上で公開すれば、世界中から検索することも理論上は可能となった。

## 2 原本史料のデジタル化と史料のネットワーク

近年、各所蔵機関が目録や古文書、典籍等を画像やテキストデータとして各館のホームページから情報発信するスタイルが一般化しつつある。例えば、台湾大学図書館の「台湾研究資源」(<http://www.lib.ntu.edu.tw/spe/taiwan/taiwan.html>)、東京大学史料編纂所・画像解析センターの「入来院文書の積文、画像、解説」([<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/academic/mdl/index.html>\)などは、そのほんの一端にすぎない。](http://www.hi.u-</a></p></div><div data-bbox=)

原本に近い状態の画像をパソコンで利用できる利点は大きい。第一に、貴重史料や痛みのある原本文書そのものを頻繁に閲覧させる必要がなくなる。ひとたび画像処理すれば、パソコンの端末で検索し、ディスプレイやプリントアウトで済ませることができる。パソコン画像での不明な点を調査・確認したい、という場合などに限って原本の閲覧を制限すれば、「原本を保存しつつ公開する」という所蔵機関の悩みを解決することにもなる。

第二に、研究室に居ながらにして原本史料を確認することが可能となった利点も大きい。文献史研究では、古文書等を活字で印刷した様々な翻刻史料集を利用することの方が多。しかし、それらの印刷物には誤植・誤読がつきものである。そのため、疑問箇所を原史料と照合する必要があるがあっても、旧来、その確認作業は容易ではなかった。研究対象の原本史料（コピー等含む）をすべて手元やあるいは手近に確保することなど不可能に近いからだ。

原本史料をデジタル化された画像で確認して、ようやく史料の意味を確定した体験がある。琉大附属図書館は、大量の宮良殿内文書をすべて画像処理して公開しているが、その中の史料のひとつに「進貢船・接貢船、唐人通船・朝鮮人乗船・日本他領人乗船、各漂着并破損之時、八重山島在番役々勤職帳」という長いタイトルを持つ古文書がある。とある活字史料集がそれを全文翻刻しているが、疑問の箇所があった。それは、キリスト教徒（キリシタン）を摘発するために、キリシタンらが所持する道具類のひとつとして、「十め此ほねにても木にても作候て持也」と翻刻された箇所の「十め」という部分がそれである。そこで、パソコンで宮良殿内文書の原本へアクセスして確認すると、それは「十如此、ほねにても木・・・」（53丁目）であった。「十如此」（十、此のごとく）と読むべきところを「十め」と誤読したために全く意味のとれない文言となっていたのである（「め」と「如」の草書体は紛らわしいが）。

ちなみに前述の部分を実代語にすると、キリシタンらは「十のようなもの（十字架のこと）を骨や木で作って所持している。」とスッキリ解釈できた。簡単に原本と照合できる利点は、このように大きい。

貴重な古文書類の画像史料を個別の機関が、それ



それぞれのホームページから発信するだけの段階を脱却しようとする新たな動きも見られる。そのひとつが、東京大学史料編纂所による「前近代日本の史料遺産プロジェクト」である。「電子情報化された史料遺産（大量の史料の画像情報、全文情報、索引情報など）」に関する複合型のデータベースを構築しようとする、壮大な構想である。各地の史料所蔵機関をリンクするネットワーク型のデータベースの構築には、各大学図書館のデジタル化の充実化が不可欠である。

幸いにも琉大附属図書館は、大量の琉球・沖縄関係史料を所蔵している。それらのデジタル化をより一層充実させることによって、ネットワーク型の琉球・沖縄関係史料の発信拠点となることを期待したい。そして、その実現のための人的・資金的な援助が学内的に採られることをも希望したい。

(とみやま かずゆき：教育学部助教授)

## 本館 1 階に貴重図書室を設置

図書館では本館 1 階に「貴重図書室」を設け現在、調整作業を行っています。同室は、空調設備を備えた木造の部屋で、資料保管室と貴重資料閲覧コーナーから成っており、沖縄資料室等から移動した次の資料を保管することになっています。

利用にあたっては、「貴重資料利用願」が必要ですので、ご注意ください。

(1) 伊波普猷文庫	161点
(2) 島袋源七文庫	115点
(3) 宮良殿内文庫	350点
(4) 仲原善忠文庫(一部)	50点
(5) Bull文庫	560点
(6) 宝令文庫	56点
(7) 原忠順文庫	39点
(8) 矢内原忠雄文庫	111点
(9) 仲宗根政善沖縄方言資料	329冊

- (10) 言語学基本図書コレクション  
(19世紀刊行の洋図書)
- (11) その他の貴重資料



## Topic! 伊波普猷文庫もデジタル化

琉大図書館では、豊見山助教授の寄稿文にある「宮良殿内文庫」に続いて「伊波普猷文庫」(URL: <http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/iha/>)をデジタル化してホームページからアクセスできるようにしております。引き続き「仲宗根政善言語資料」のデジタル化もすすめています。

## Web of Science を体験しよう

Web of Scienceは自然科学、社会科学、人文科学のあらゆる分野の学術誌をカバーしているデータベースで、これまでCD-ROMで提供していたScience Citation Index(自然科学)、Social Science Citation Index(社会科学)、Arts & Humanities Citation Index(人文科学)を統合してWebサイトから検索できるシステムになっています。琉球大学の学内LANに接続してインターネットが使える端末なら、どこからでもいつでも時間の制限なしに無料で簡単に使うことができます。簡単に操作方法などを紹介します。ぜひ活用してください。

琉球大学でWEBで利用できるデータは1996年以降のもので、それ以前のはCD-ROM検索システムでの利用となります。Science Citation Index Expandedは5,600誌以上を収録。毎週16,000レコードを追加。Social Science Citation Indexは1,700誌以上を収録。毎週2,800レコードを追加。Arts & Humanities Citation Indexは1,100誌以上を収録。毎週2,200レコードを追加しています。



### 0. 図書館のホームページからWeb of Science のホームページへ

図書館ホームページの「資料・情報を探す：雑誌論文・記事」→「データベース検索システム」→「Web of Science」→Web of Science のホームページ(<http://wos.isiglobalnet2.com/>)

### 1. Web of Scienceには2つの検索モードが用意されています。

いずれも、分野を選択して限定したり、複数分野にまたがった検索が可能です。また、AND検索・OR検索、検索語の前方一致などが利用できます。

(1) Easy SearchはTopic=主題、Author=著者名、Place=地名のいずれかをキーワードとし、DB全体を対象とした検索で、検索結果は最大100件まで表示されます。

(2) Full SearchにはGeneral Search(特定主題の検索)、Cited Reference Search(被引用文献の検索)があります。データ年を指定することもでき、検索項目間のAND検索が可能です。検索結果は通常最大500件まで表示できます。



(利用上の注意) 検索が終わったら必ずLogoffをします。忘れないようにしてください。

#### 1-1. Easy Search

Topic(主題)、Author(著者名)、Place(著者が所属する機関や地名)のボタンを選択して、検索(Search)します。年代を絞ったり、Topic, Author, Place を組み合わせた検索はできません。

#### 1-2. GENERAL SEARCH：特定の主題についての情報を検索

検索フィールド(SEARCH FIELDS)の検索語を入力、フィールド間のAND検索が可能です。

- 1) TOPIC=主題：論文タイトル、抄録、キーワードから検索
- 2) AUTHOR=著者名：著者の姓+スペース+名のイニシャルによる検索
- 3) SOURCE TITLE=収録誌タイトル：雑誌のフルタイトルによる検索  
(listをクリックするとジャーナルリストが見られます)
- 4) ADDRESS=著者アドレス/機関名：機関名、都市名、国名、郵便番号などによる検索

### 1-3. CITED REFERENCE SEARCH：特定の文献が何に引用されているかを調べる

検索フィールド(LOOKUP FIELDS)に検索語を入力、フィールド間のAND検索が可能です。

- 1) CITED AUTHOR=被引用著者：引用文献の第一著者の姓+スペース+名イニシャルによる検索  
(姓は15文字まで) 共著者がある引用文献であれば複数の著者名を並べても構いません。
- 2) CITED WORK=被引用出版物：雑誌は略誌名、書籍はタイトル中の重要語の最初の何文字か  
(最大20文字まで)、特許は特許No.による検索
- 3) CITED YEAR=出版年：引用文献の刊行年がはっきりとわかっている場合

1994 OR 1995 OR 1996のように、演算子ORを使って刊行年を特定することもできます。

このLook-Upでは、できるだけ少ない情報を入力する方がよいでしょう。関連のありそうな多くの引用文献がヒットします。引用文献には同じ記事・論文であるにもかかわらず表記がさまざまなものがあるので、このLOOKUPで確認できます。

LOOKUPボタンで条件を満たす引用文献リストを表示したのち、検索する引用文献を選択して、SEARCHボタンをクリックして検索を実行します。

## 2. 検索結果からのリンク

Web of Scienceでは検索結果からCited ReferenceリンクとTimes Cited linkリンクが利用できるのが特徴です。

Cited Referenceリンクでは、その論文の引用文献の書誌情報(著者抄録含む)へリンクできます。Times Citedリンクでは、その論文を引用しているCiting Paper原著論文の書誌情報(著者抄録含む)へリンクできます。また、電子ジャーナルのフルテキストにリンクしているものもあります。



## 3. Related RecordsとKeywords Plus

Related Recordsとは、2つのレコードについて、それぞれが1つ以上同じ文献を引用しているレコードのことです。共有する引用文献が多いものから順に表示されます。これは従来の主題検索や著者名検索では得られないような関連文献をすばやく効率的につきとめる方法のひとつです。

Keywords Plusは、引用文献のタイトルから所定のアルゴリズムによって抽出して付与しているキーワードです。検索語をさらに広げたり、アクセスポイントを増やす効果があります。

## 7. マニュアルとヘルプ機能

操作方法などについてのマニュアルは、図書館ホームページのデータベース検索のページにあります。検索フィールドのルール一般 (SEARCH FIELD RULES) 等詳細については、HELPを参照してください。



## 文献紹介：幕末の異国船来琉記と当時の琉球の状況①

—琉球大学附属図書館所蔵沖縄関係資料から—

豊平 朝美

当館の所蔵資料の特色の一つに、沖縄関係資料があるが、その中に「Bull文庫」や「Kerr文庫」のような外国人の収集による沖縄関係のコレクションがある。大部分が英語の文献である。ブル文庫の寄贈者のブル師(the Rev. Earl Ranlon Bull;1876-1974)は米国のメソジスト監督教会から派遣され、明治44年(1911)から大正期の間、主に沖縄で布教活動した宣教師である。ブル師は幕末に来琉した宣教師ベッテルハイムの研究者でも知られ、同コレクションにはブル師手書きの写しによるベッテルハイム日記・書簡の他、バジルホール、ペリー提督、宣教師チャールズ・ギュツラフ師その他の外国人の航海記など約560点の多数に上る。ベッテルハイム日記については、同文庫以外に、ベッテルハイムの滞在日誌と書簡控帳等の貴重な自筆原稿が当館にある。入手の経緯は、同資料はこれまでベッテルハイムの子孫によって大事に保存されてきたが、曾孫にあたるR.J.ハンプトン夫人から琉大で研究に役立て欲しいという意向が、同夫人と交流のあった照屋善彦教育学部助教授(当時)へ伝えられ、同氏を通じて本学へ寄贈された。

16世紀頃からアジアや日本及び琉球について、西洋人による多数の航海記が書かれているが、その背景の一つとして、西洋諸国の人々がアジア諸国、日本や琉球に進出してきたことが上げられる。15世紀に西洋諸国による新航路発見と科学技術の発展にともなって、スペインやポルトガル人が東洋に進出、その後、イギリスも17世紀初頭に進出、オランダやフランスもこれに続いた。18世紀にイギリスに産業革命がおこり、19世紀には産業革命はヨーロッパおよび米国にも波及した。西洋の先進諸国は原料供給と商品販売市場を拡大するため、激しい植民地獲得競争を展開した。17世紀以降の鎖国状態の日本にも西洋諸国の人々が、キリスト教の布教や貿易を求めて来航してきた。航海記や来琉記はそういうもとで見聞した西洋人が書いたものである。

ブル文庫の内容は当館のホームページで

も蔵書の一部を紹介しているが、今回はブル文庫の中からバジル・ホールの航海記を中心に、それに記載されている当時の琉球の状況を紹介したい。

外国船来琉記の文献については、須藤利一著の『異国船来琉記』(昭和49年9月発行)や最近では山口栄鉄編著の『外国人来琉記』(2000年7月発行)等で資料名とその内容を詳細に紹介している。またその他の解題については山口栄鉄編著『琉球:異邦典籍と史料』や『異国と琉球』等がある。バジル・ホール来琉記及びホールのナポレオン会見録等に関する訳文については、戦前では伊波月城(伊波普猷の実弟)、中村清二、志賀重昂、神山政良氏等が新聞に寄稿しており、須藤利一氏は『大琉球島航海記』の初版『大琉球島探検航海記』を昭和15年に単行本として出している。戦後は大熊良一訳著のナポレオン会見録に関する『セント・ヘレナのナポレオン』の和訳本が単行本として出ている。

ホールの初版は1818年にロンドンから出版され、米国でも同年フィデルフィアから出版されているが、フィデルフィア版はロンドン版に比べ、サイズも小さく、文字も小さい。フィデルフィア版は琉球島の図と本文のみで、本文に関しては両書とも内容は同じだが、ロンドン版は当時の琉球の風俗を表したカラーの挿絵が多数収録されている他、巻末にライラ号に乗船していたホールの友人、クリフォードが採集した琉球語と英語を比較対照した1,000語近い琉球語彙と118例の文例がある。この琉球語彙の収録については、ホールの著書の中で、クリフォードが琉球人(真栄平房昭、屋嘉比思次良等)から琉球語を採集していく状況が描かれている。巻末の琉球語彙は、発音をアルファベットで標記している。その表記もかならずしも正確ではない所が多いようである。例えば「Pig」(豚)のことを「Boo'ta」と標記(琉球語で「ウワー」)したり、「Bird」(鳥)をHo'too(鳩)と取り違えているところである。このクリフォードの「琉球語彙」によって、琉

球語の見本が初めて外国に紹介された。

明治時代に、ホールの外孫、英国の言語学者バジル・ホール・チャンバレンが来日したのはこのホールの著書が縁になっているといわれている。チャンバレンは1893(明治26)年に、沖縄で1カ月間滞在して、言語、民族調査をしたが、その後明治28年にチャンバレンは「琉球語文典並びに辞典に関する試案」を出版して、琉球語を日本語の姉妹語であると断定した最初の外国人といわれている。(伊波普猷全集第8巻等参照)

クリフォードは琉球からの帰英後、琉球での布教活動を試みて、英国海軍琉球伝導協会の設立に奔走する。1843年に同協会が結成されたことにより、ベッテルハイムが宣教師として派遣されることになった。ベッテルハイムは1845年9月に家族とともに英国を出発、途中、香港を経由して1846年4月30日那覇に到着した。1854年7月に、ペリー艦隊とともに那覇を去るまでの8年間沖縄に滞在したが、王府の役人の監視による住民との接触を妨害されたことで、布教は成功しなかったが、琉訳聖書の出版など業績を残している。

山口栄鉄編著『外国人来琉記』によると、医師マクレオド著の『アルセスト号朝鮮大琉球島航海探検記』はバジル・ホールの初版より1年早い1817年にロンドンから出版されていて、同書には英国出発からの全行程を記載、琉球のことについてはゴービルが要約した中国の冊封使(中国皇帝の琉球への使者)徐葆光の著書『中山伝信録』(1711年)が引用されていると

紹介している。山口氏は同書のバジル・ホールの来航の「大琉球島賛歌」と題した概説で、琉球がまれに見るほどの高度の徳義感あふれる人たちの国であり、西洋の物質文明、商業主義、重商主義の発達で急速に失われつつあった人道性を、この国が持ちつづけていることに西洋の人自身が驚きの目を向け、その事を遠洋からの訪問者たちは母国のはらから(同胞)に書きつづけた。琉球人の平和的で友情厚き民と讃歌したその琉球の民の存在を、英国はもとよりヨーロッパ全土にあまねく知らせる役を担った。英艦ライラ号艦長バジル・ホールの琉球感はロマン主義者の幻想として、後に批判を受けることになる。

大正元年(1912)9月7日から11月13日まで61回にわたって「沖縄毎日新聞」に連載された伊波月城の『バジルホール琉球探検記』(第1章の朝鮮関係を除く)から当時の琉球の状況をかいまみることが出来る。昭和15年に出された、須藤利一氏の『大琉球島探検航海記』も同じく第2章と第3章の全訳となっている。戦後の昭和30年に出版された同氏の『大琉球航海記』は第1章の朝鮮が新たに含まれており、序文で初版の内容の不十分を補足して、訳文も平易にしたと著者は述べている。月城の訳文は廃藩置県後間もない大正初期に新聞というメディアを通して、バジル・ホールの航海記を広く紹介、大正期の沖縄で失意と貧困にあえぐ県民に勇気を与えた意義は大きいと思われる。(つづく)

(とよひら ともみ：図書館専門員)



左：硫黄島

バジル・ホール著

『朝鮮西部沿岸及び大琉球島

航海探検記』 1818年ロンドン版収録



右：同書収録の琉球語彙



# お知らせ

◎ 開館案内 2001年7～9月

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							1
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
29	30	31	26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29					
									30											

- ・開館時間 通常期：月～金 [黒字] 8:30～22:00 土・日・祝 [緑字] 13:00～20:00
- ・ 休業期：月～金 [青字] 8:30～17:00 土・日・祝 [赤字] 休館
- ・休館日 土・日曜 (夏季休業：8/6～9/30)、振替休日 (9/24)、  
定例休館日 (7/26、8/23、9/27)

※ 本館では当月、翌月の開館案内 (カレンダー) を入り口及び掲示板に掲示しています。  
ご注意ください。(年間の開館案内はホームページをご覧ください)



☆は休業期 (上映13:30～)  
 その他は通常期 (上映①15:00～  
 (上映②18:00～)  
 上映場所：琉球大学附属図書館  
 1階 多目的ホール  
 又は1階A V視聴室 (共同学習室)

【7月の予定】

- 7月4日 (水) メトロポリス：METROPOLIS/1927/ドイツ映画 94分
- 7月11日 (水) ジキル博士とハイド氏：DR.JEKYLL AND MR.HYDE/1932/アメリカ映画 98分
- 7月18日 (水) キング・コング：KING KONG/1933/アメリカ映画 100分
- 7月25日 (水) フランケンシュタイン：FRANKENSTEIN/1931/アメリカ映画 69分

【8月の予定】

- 8月1日 (水) 仮面の米国：I AM A FUGITIVE FROM A CHAIN GANG/1927/アメリカ映画 91分
- ☆8月8日 (水) 大地の子 第1部～父二人/1996/NHK放送70周年記念番組,日中共同制作ドラマ 89分  
同時上映：迎春花/1942/松竹＝満映合作映画 74分
- ☆8月15日 (水) 大地の子 第2部～流刑、第3部～再会/1996/日中共同制作ドラマ 89分
- ☆8月22日 (水) 大地の子 第4部～黒災(ハイツァイ)、第5部～長城/1996/日中共同制作ドラマ 89分
- ☆8月29日 (水) 大地の子 第6部～日本、第7部～兄弟/1996/日中共同制作ドラマ 89分

【9月の予定】

- ☆9月5日 (水) 大地の子 第8部～密告、第9部～父と子/1996/日中共同制作ドラマ 89分
- ☆9月12日 (水) 大地の子 第10部～冤罪、第11部～長江/1996/日中共同制作ドラマ 89分
- ☆9月19日 (水) 風と共に去りぬ：GONE WITH THE WIND/1939/アメリカ映画 232分
- ☆9月26日 (水) ゴッドファーザー：THE GODFATHER/1972/アメリカ映画 175分

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第34巻 第3号 (通巻第131号)  
 平成13年7月1日発行  
 発行：琉球大学附属図書館 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町千原1番地  
 電話 098(895)8168 Fax.098(895)8169